



本町ほのぼのだより 第14号

発行：中野区立本町図書館 中野区本町2丁目13番2号 Tel 03-3373-1666

発行年月日：平成25年8月31日 第14号

第14回 本町図書館 個性づくりテーマ展示

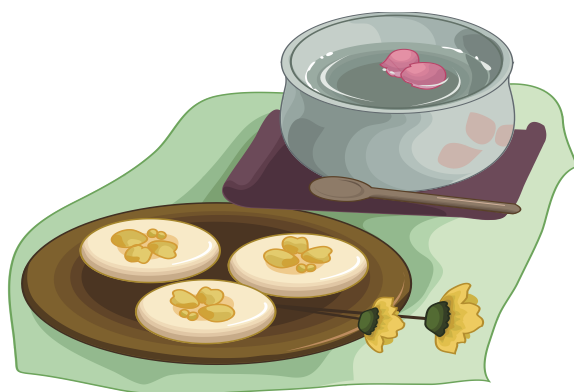
日本の文化を楽しもう！ ～茶・華・香の道

本町図書館では、『文化・芸術・芸能』に関する資料を、絵画や音楽、工芸、伝統芸能など幅広い分野にわたって収集・展示をしております。

第14回目となる今回は、「日本の文化を楽しもう！～茶・華・香の道」と題して、「茶道・華道・香道」をテーマにした展示をお届けします。

「茶道」「華道」「香道」と聞くと、何となく格式張っていて、近寄りがたいというイメージがあるかもしれませんが、けれども「お茶」も「お花」も「香り」も、私たちの身近にあるもの。

今回ご紹介する本を読んで、興味をお持ちいただければ幸いです。



展示場所：本町図書館 2階書架

展示期間：平成25年8月31日(土) ～ 10月24日(木)

※ 展示資料は貸出もできます。

茶道とは



一定の作法に則ってお茶を点て、それを一定の作法で飲むと思われがちですが、美術、工芸、詩歌、書画、生花、茶室建築、造園、懐石料理、菓子など幅広い分野にわたる総合芸術です。お茶を学ぶ時に何が一番大事かと言うと基本的には思いやり、気遣い、一期一会の精神です。

茶席では相手の細かい嗜好を感じとって趣向に反映させていきます。常に相手のことを考え、そこに自分をどう表現していくか。立ち居振る舞いや姿勢を気遣います。作法は本来楽しくお茶を味わう為のものです。



茶道の歴史

日本にお茶をもたらしたのは遣唐使として唐に留学した僧侶たちとされています。日本で「茶道」という言葉が茶の湯の称として用いられたのは17世紀中ごろです。

茶道は鎌倉時代榮西くえいさいが臨済禅とともに抹茶法を伝えたことに始まり、南北朝のころには一定場所に集って茶の本非くほんぴをしました。本非とは、楊尾産である「本茶」と、その他地方産である「非茶」を飲み比べることです。

また、飲んで茶の産地をあてる競技闘茶が流行しました。

室町中期になると貴族の建築であった書院造りが住宅としても普及し、お茶会が書院の広間で行われる様になり、足利義満、義教の同朋衆の能阿弥が書院茶の作法を完成しました。



茶道の流派



千利休以前から数多くの流派があり、現在まで受け継がれています。千利休以前の流派である奈良流は村田珠光くむらたじゅこうを祖とし室町中期、侘び、さびを理念として心の問題を重視し、茶室は草庵の数寄屋を理想としました。室町末期、堺流は武野紹鷗くたけのじょうおうを祖とし、堺の町を基盤としました。奈良流の流れを汲んでいます。

能阿弥を祖とする東山流は茶室を書院造りとし、台子くだいす飾りの方式を決め、書院茶の作法を完成させました。

千利休と同時期の流派の創始者の多くは千利休の直弟子や武野紹鷗の門人らで、千利休の影響を受けながらも独自の茶風が見られます。その中で藪内流は藪内紹智くやぶのうちじょうちを祖とし、西本願寺の庇護を代々受け、書院手点で古流を保っています。利休七哲の一人である古田織部を祖とした織部流は、武家茶道の創始でもあります。

遠州流は織部に茶の湯を学び独創性を加えた小堀遠州が祖となり、格式ある大名茶道として現在にも受け継がれています。千利休の死後、利休の孫三代元伯宗旦の次男一翁宗守、三男江岑宗左、四男仙叟宗室が各々「官休庵」(武者小路千家)、「不審庵」(表千家)、「今日庵」(裏千家)として千利休以来の道統を継ぎ三千家に分かれました。



お茶会でお茶を頂く

●お抹茶の頂き方

①お菓子が運ばれてくる

②点前がはじまる



③お茶が運ばれてくる



④点前が終わる

出典:『お茶をはじめてみよう』淡交社編集部・編(淡交社)791 オ 本町図書館所蔵

参考文献:『茶道ハンドブック』田中 仙翁・著(三省堂)791.0 タ 本町図書館所蔵

『咲くも咲かぬも花嫁修業』阿川 佐和子・著(東京書籍)790 ア 本町図書館所蔵

『茶の宇宙茶のこころ』京都新聞社・編(京都新聞出版センター)791.6 千 本町図書館所蔵



【お菓子を頂く】

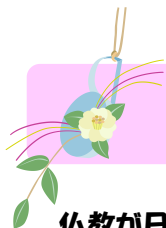
- ・自分の前にお菓子が置かれたら、出してくれた方に一礼します。
- ・次の方に「お先に」と挨拶します。
- ・菓子鉢を少し持ち上げ、頭を少し下げます。
- ・替えの菓子鉢が出された場合、正客以外は正客がお菓子を取り始めたらお菓子を取ります。
- ・懐紙を出して菓子鉢の上の箸でお菓子を取ります。
- ・楊枝でお菓子を切って食べます。

【お茶を頂く】

- ・正客にお茶が出され、自分の前に置かれたら、運んできた方に一礼します。
- ・自分にお茶が運ばれると、まず前の方との間に茶碗を置いて「お相伴致します」、次の方に「お先に」と挨拶をします。
- ・自分の膝の前に茶碗を置いて、亭主に向かって「お点前頂戴します」と言い、一礼します。
- ・右手で茶碗を取って、左手のひらにのせ、茶碗を少し上に持ち上頭を下げ、感謝します。
- ・茶碗を右手で一、二と、時計の針と同じ向きに回しお茶を頂きます。最後の一口は、音をたてて吸いきります。
- ・飲みきったら、その飲み口を右手の親指と人差し指で左から右へと拭きます。
- ・茶碗を畳の縁の向うに置いて、姿を拝見します。
- ・茶碗を取りに来た方の方へ、茶碗の正面を避けて、畳の縁外に置きます。

華道とは

華道とは、四季折々の草花や樹枝などの植物、素材を組み合わせて構成し鑑賞する芸術である「いけばな」に、求道的な思想を加えたものです。



華道の歴史

仏教が日本に伝わったのが6世紀の中ごろ。華道の起源は、日本に仏教が広まり、その仏前に花を供える習慣(仏前供花<ぶつぜんくげ>)から始まったものと考えられています。

室町時代には、仏前だけでなく床の間などさまざまな場所に花を生けて楽しむようになりました。

当時の花は直立させた「しん」の枝と周囲の「下草<したくさ>」で構成する「たて花」と呼ばれるシンプルな様式の花で、足利將軍家に仕えた同朋衆と呼ばれる人々によるものでした。その後、京都の六角堂というお寺の住職・池坊専慶<いけのほうせんけい>が花を生ける名人として武將に招かれて花を生けました。

池坊は現在も続く大きな流派となっています。

その後、同じ六角堂の住職である池坊専応<いけのほうせんおう>が華道書「池坊専応口伝」を書き、華道が成立しました。

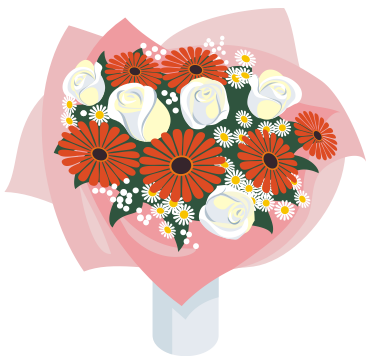
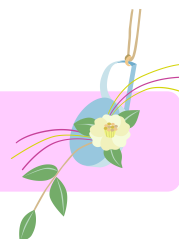
専応の後、池坊は専栄、そして専好へと続きます。そして次第に池坊全体が「花」に関して影響力を持ち、秀吉のために花を立てる事を命じられています。

池坊を中心として広まった「たて花」は、安土桃山時代の文化的諸相とともにその性質を変え、二代目専好によって江戸時代の初めに「立華<りっか>」と呼ばれる様式が完成しました。立華はたて花のしん・下草の構造をより複雑化・大型化した華麗な花で、後水尾天皇を中心に宮中でも流行しました。江戸時代以降は町人の間にも広く普及し、生花<しょうか、せいけい>を中心に愛されるようになります。また、後水尾天皇の第一皇女・文智女王が結んだ草庵が元になった圓照寺からは山村御流という流派も出ています。

19世紀末には小原流により盛花も編み出されました。また時の政府が女性の教養教育の一貫として女学校で華道を教える事に決めたため、華道は女性の教養・たしなみとして日本全国に広まっていったのです。



華道とフラワーアレンジメントの違い



「池坊専応口伝」はじめ華道書はたくさんありますが、西洋のフラワーアレンジメントとの大きな違いは、ただ花のみを観賞するのではなく、ひとつのいけばなの中に野に咲く姿を表現し、自然の山水を表現する——すなわち大自然をひとつのいけばなの中に表現するという事です。

その大自然は必ずしもリアルなものだけではなく、抽象化・内面化した自然であり、その自然の背後にある宇宙でもあります。

香道とは

香道とは、香木を焚き、香りの違いを「聞き分ける」芸道です。香道の作法や香席の流れにも一定の作法がありますが、香りそのものを味わい、そしてその香りによって感性を磨き、自分を高めることを目的としています。



香道の歴史

595年(推古3年)に淡路島に漂着した一本の流木が日本で初めての香木の渡来と言われています。その流木は、都へと運ばれ推古女帝に献上されたことが『日本書紀』に記録されています。香は仏教儀礼で用いられていましたが、平安時代には、仏前だけでなく、部屋で焚かれたり、衣装などに香りを移したり、香りそのものを楽しむようになりました。香木香料をミックスして独自の香りを創造し、その優劣を競う「薫物合わせ」という香遊びが行われるようになります。室町時代に入ると、香木の鑑定と分類を進める必要が生じ、さらに古典文学や日本の四季などと結び付けて香りを楽しむ文化が生まれました。今日の芸術文化としての「香道」の成立です。

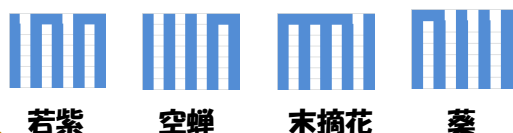
香道の楽しみ方



聞香 …一人で心を傾けて香木の香りを楽しむ方法。

組香 …複数の香木を和歌や物語の主題によって組み、その香りを聞き当てる遊戯。香を聞く集まりである香席は、家元の「出香」、香炉を準備する「香元」、香元の補佐を行い記録をする「執筆」と、回答者である「連衆<れんしゅ>」によって構成されます。組香には、五種の香りで源氏物語の経緯を作図によって表現する「源氏香」、四種の香を使って賀茂の競馬の有様を香りの上で楽しむ「競馬香<くらべうまこう>」などがあります。

源氏香の図一例:

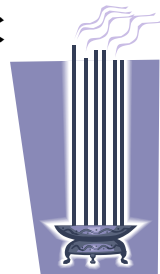


若紫

空蟬

末摘花

葵



香道の流派

御家流と志野流があります。御家流は三條西実隆を祖とし、志野流は足利義政の側近であった志野宗信を祖とする流派です。使用する香道具やお点前、香木の味に対する考え方にそれぞれの特色があります。

☆逸話☆

東大寺の正倉院には、「蘭奢待<らんじゃたい>」という1.5メートルの巨大な香木が残されています。その表面には足利義政、織田信長、明治天皇が一片を切り取った跡と、名前が記されています。織田信長がやってくると知った東大寺は「満寺仰天、筆力に及びがたし」と記録を残すほどに大騒ぎしたとのこと。織田信長が「蘭奢待」を必要とした理由は…? 続きが気になる方はぜひ「香三才」をお読みください。

参考文献:『日本の香り』松栄堂・監修(平凡社) 576.6 二 中央図書館所蔵

:『香をたのしむ』一条真也・著(現代書林) 792 イ 南台図書館所蔵

:『香三才 香と日本人のものがたり』畑正高・著(東京書籍) 792.0 ハ 中央図書館所蔵



展示図書リスト



書名	著者	出版者	出版年	分類記号
咲くも咲かぬも花嫁修業	阿川佐和子著	東京書籍	2011	790 ア
めづめづ和文化研究所京都	小栗左多里 他著	情報センター出版局	2008	790 オ
茶の湯とは何ぞや	有馬頼底著	世界文化社	2012	791 ア
お茶をはじめてみよう	淡交社編集局編	淡交社	2007	791 オ
茶の湯と日本文化	神津朝夫著	淡交社	2012	791 コ
茶道美人	岡田和弘著	新人物往来社	2011	791.0 オ
新島八重の茶事記	筒井紘一著	小学館	2013	791.2 ツ
お茶人のための京のいっぴん	淡交社編集局編	淡交社	2013	791.5 オ
香道具	NHK「美の壺」制作班編	日本放送出版協会	2010	792 コ
香道を楽しむための組香入門	谷川ちぐさ著	淡交社	2012	792 タ
香の文化史	松原 睦著	雄山閣	2012	792.0 マ
川瀬敏郎一日一花	川瀬敏郎著	新潮社	2012	793 カ
はな ひと うつわ	関 美香著	平凡社	2012	793 セ
いにしへの香り	樋口百合子著	淡交社	2012	910.23 ヒ

茶道・華道・香道について調べてみよう！

1. キーワードを使って調べよう

「茶道・華道・香道」について調べるには、次のキーワードが手掛かりになります。



茶道	茶の湯	茶	茶器	茶人	点前
華道	いけばな	花	フラワーアート	花卉装飾	花器
香道	香り	聞香	源氏香	香料	香炉

2. 基本的な情報源を使って調べよう

辞書・事典類を使って、テーマについての基本的な事柄を押さえましょう。

書名	請求記号	所蔵館
日本大百科全書	031 ニ (館内閲覧のみ)	本町図書館
原色茶道大辞典	R791.0 ゲ (館内閲覧のみ)	(本町図書館なし) 中央図書館 参考室
香道の歴史事典	R792.0 ジ (館内閲覧のみ)	(本町図書館なし) 中央図書館 参考室
いけばな総合大事典	R793 イ (館内閲覧のみ)	(本町図書館なし) 中央図書館 参考室

3. 図書を探そう

図書館では、関連分野ごとに図書が並んでいます。[テーマの欄]を実際に見て、図書を探しましょう。

791	茶道	792	香道	793	華道
596.7	茶(飲み物)	576.6	香料	627	花(園芸)

本町図書館に図書がなくても、[図書館のホームページやOPAC]を使って、図書を探しましょう。



〔中野区内に図書があるか〕

●中野区立図書館ホームページを使って調べましょう。

→ <http://www3.city.tokyo-nakano.lg.jp/tosho/index.html>

〔東京都内に図書があるか〕

●東京都立図書館のホームページを使って調べましょう。

→ <http://www.library.metro.tokyo.jp/>

〔国内に図書があるか〕

●国立国会図書館のホームページを使って調べましょう。

→ <http://www.ndl.go.jp/>

4. 雑誌・新聞記事を探そう

●中野区立図書館で所蔵している主な雑誌

タイトル	所蔵館
なごみ 茶のある暮らし	(本町図書館なし)江古田図書館

●中央図書館参考室の雑誌新聞記事索引データベースを使って調べよう

日経テレコン21	1975 年からの日経 4 紙(経済・産業・金融・流通)の新聞全文や企業情報などが検索可能。
聞蔵 II ビジュアル	朝日新聞のほか、知恵蔵・AERA などが検索可能。
MAGAZINE PLUS	雑誌記事や論文情報検索が可能。
WHO PLUS	歴史上の人物から存命中の人物について検索可能。
官報情報検索サービス	1947 年から当日までの官報が検索可能。
D1-Law.com	判例などの法律情報が検索可能。

5. インターネットを使って情報を調べよう

●表千家ホームページ <http://www.omotesenke.jp/>

●裏千家ホームページ <http://www.urasenke.or.jp/>

●入間市博物館(お茶の図書館)

<http://www.alit.city.iruma.saitama.jp/03search/08tea-library.html>

●日本いけばな芸術協会 <http://www.nihonikebana.or.jp/>

●公益財団法人 お香の会 <http://www.okou.or.jp/index.html>



本町図書館からのお知らせ



本町図書館個性づくり展示 「日本の文化を楽しもう！～茶・華・香の道」はお楽しみいただけましたか。これからもみなさまの身近にある、お役に立つ図書館、新しい発見のある図書館を目指して、スタッフ一同取り組んでまいります。

☆おはなし会☆

毎週土曜日 11:00～11:30

第4水曜日 15:30～16:00

児童室にて開催中！

第4土曜日は乳幼児向けの
「おひざでだっこのおはなし会」

☆個性づくり展示☆

第十回・工芸

第十一回・歌謡曲

第十二回・美術館

第十三回・仏像

過去の個性づくりの本も
展示してあります。
是非ご覧下さい！

第一回・岡本太郎

第二回・落語

第三回・映画

第四回・伝統工芸

第五回・音楽

第六回・デザイン

第七回・浮世絵

第八回・舞台

第九回・ジブリは、
1階7門書架にあります。

☆開館時間・休館日のお知らせ☆

開館時間：**9:00～20:00**

休館日：**第2月曜日 & 最終金曜日**

(10月は、第2月曜日が祝日ですので、翌日が休館日にになります)

☆9月・10月の休館日のご案内☆

<9月>9日(月)、27日(金)

<10月>15日(火)、25日(金)

「本町ほのほのだより」
第15号は10月26日
発行予定です。

